

The Japan Institute of
Architects Kyushu branch
公益社団法人 日本建築学会九州支部

SEP.2020

BULLETIN Kyushu BRANCH

九州で活躍する建築家のための情報誌



Contents

- 支部長挨拶 P2
- オピニオン P3-P4
- とりせつ P5-P6
- トピックス P6-P7
- あのこと P8-P9
- よかもん P10-P11
- わさもん P12-P13
- 委員会報告 P14-P17
- 地域会活動報告 P18-P29
- 編集後記 P30

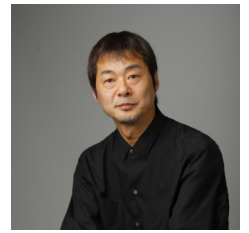


伝統構法の特徴の整理
昔建ての家が、今建てられないことの解消
昔建てでない、今も建てられないのは、建てられ
ない
・地震対策として想定外の時も移動する
・石場建が可能
・白蟻発見がしやすい
・柱太さい場合、壁無し設計が可能
・省エネ法の努力義務不要
・24時間換気副不要の場合もある
・木材の使用量は普通の家の倍

支部長挨拶

朝夕はしだいに涼しさを感じる頃となりましたが、コロナ禍でも九州支部会員の皆様におかれましてはお健やかに過ごしの事と存じます。今年度予定されていた九州支部の主な事業も安全面を最優先し、中止や延期を余儀なくされている状況ですが、本部理事会や九州支部役員会はオンライン会議で開催されています。リモートでの会議にも慣れてきましたが、やはり対面式での会議の方が私には性に合っているようです。2020年度はこのまま何もできずに終わってしまうのではと危惧しておりましたが、このような状況下でもできる事はないかと執行部で考え、「まち並みレビュー」と称したJIA会員がお勧めする地元の建築や街並みを紹介する企画を立ち上げ募集した所、60を超える推薦が寄せられました。ご協力を頂きました会員の皆さんには、この場を借りて深く感謝申し上げます。応募された作品をもとに九州支部独自の建築MAPをHPにてご紹介し、九州を訪れる方々が旅のツールとして活用できるなど、九州建築の普及活動につなげていければと考えております。

ここで嬉しいお知らせがあります。この度、長年JIA九州支部の発展に大変ご尽力をされた大先輩の日比生正さんが名誉会員に。鈴木基正さんがフェロー会員になりました。日比生さんは私が福岡地域会長の時からいつもやさしい笑顔で励ましのお言葉をいただき、私たちのお父さんの存在です。鈴木さんは西日本工業大学の非常勤講師をご一緒させていただいた時期が長



松山 将勝（九州支部長）

く、その真摯なお人柄に触れながら鈴木さんのような人間になりたいと思うほど私が尊敬する方です。そのおふたりの今日までの功績が認められ、特別な会員の称号を受けられた事は、今年一番の嬉しい出来事でした。本来であれば感謝の気持ちを込めて盛大にお祝いをさせていただきたい所ですが、このような状況下で叶わない事が残念でなりません。諸先輩方が築いてこられた歴史を私たち世代がしっかり継承し、次の世代につなげていく使命を改めて感じながら、今後もJIA九州支部を盛り上げて参りたいと思います。

今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

最後に2015年6月6日開催された四季の会での集合写真を掲載致します。

四季の会はJIA九州支部の礎を築いてこられた先輩方を囲んで年1回開催されています。



都心の空き店舗を九州の文化を知る場にする社会実験One Kyushu ミュージアム



松岡 恭子（福岡地域会）

新型コロナの影響は、私たちの生活を一変させました。在宅ワークとネットショッピングが日常になり、オンラインイベント参加の気軽さが発見された今、私たちは長い人類の歴史でこれまで存在しなかった特異点を迎えている気がします。そしてこのままでは都心が持っていた役割が薄れていくのではという危機感が湧き上がるようになりました。

天神ビッグバンという大規模再開発の対象地の地権者からなる協議会「天神明治通りまちづくり協議会（MDC）」のコンサルタントとアドバイザーを今年春まで5年ほどやってきました。その中で一貫して言い続けてきたのは、建物が大きくなり床が増えるだけで街が魅力的になるわけではないということです。「景観デザイン」とは建物の形やデザインのことだけでなく、そこに喜びある人の行為が生まれ、単なる消費ではない心を豊かにする場ができることを目指すのだとお話ししてきました。高さや容積の緩和を受けるための公共貢献要項として地上の広場やセットバックなどが組み込まれていますが、私はむしろ中間階に文化に触れることができるホールやギャラリー、緑化した屋上庭園の市民解放なども加えるべきだと提言してきました。また、そういう文化施設はビル毎に運営するのは荷が重いので、協議会で別の組織を作り、いろいろな文化に詳しい方をキュレーターとして招き入れ、各ビルに点在する空間の企画運営を行うと街全体の文化度を上げていけるとお話ししてきました。しかしなかなか具体的に事業者が動くには至っていない中、私はこの春MDCの仕事を降りることになったのでした。

都心はいま、行かなければならなかった場所から、行きたくなる場所をめざす必要があると思います。働く、買い物をする、という「機能」や「消費」ではなく、長

い時がつくってきた「文化」や「芸術」こそがその鍵を握っていると思います。スーパーブランド店が並ぶ街よりも、その場所、その時にしか出会えないものを求めて人は足を運ぶようになるのではないのでしょうか。コロナの影響もあって生まれ始めた福岡・大名の空き店舗を見ながら、以前に増してコンテンツが大事だと思うようになりました。

大名は400年前黒田藩が整備した、戦災を免れ昔の道が残るヒューマンスケールな城下町です。九州一の繁華街、天神に隣接しているため、近年では小振りの事務所やショップ、飲食店がひしめく賑わいの絶えない街でした。私は父の跡を継ぎ不動産会社の社長も兼務しているので店舗の撤退情報が耳に入りやすく、ますます、コロナがもたらす賑わいの低下を、指をくわえて見ているわけにはいけないと思いました。そしてMDCで提言してきたことを自ら汗をかいてやってみようと思ったのでした。5月の連休中に構想を描き、休みが明けたらすぐに一般社団法人都心空間交流デザインの設立に着手、同時に国土交通省のまちづくり助成金に応募し、幸い助成をもらえることになりました。複数の空き店舗の持ち主と短期の賃貸借契約を結び、九州の魅力・誇るべき文化を結び付け新しい交流を生む社会実験「One Kyushu ミュージアム



ム」を9月から11月まで、毎月11日間開催するに至ったのでした。文化を取り上げるにあたりいろいろな専門家の方に声を掛けたところ、焼きもの、音楽、食、茶葉、スイーツ、アートなどその道のプロフェッショナルがこの取り組みに快く賛同、協力くださることになりました。産品は九州のすべての県から月替りで到着します。佐賀県・長崎県から「肥前やきもの圏」、すなわち唐津、有田、伊万里、嬉野、武雄、波佐見、佐世保の七つの産地の四百点を超える焼きもの。福岡県の八女茶と鹿児島県の知覧茶。さらにワインの業界で大変評価の高い、大分県の安心院ワイン。以上が9月にお目見えしました。10月以降は宮崎県の都農ワイン、鹿児島県の薩摩切子、大分県の竹細工などを予定しています。

どちらの会場でも販売は行いません。購入はオンラインサイトを紹介するだけにとどめ、会場ではその産品が辿ってきた歴史やつくられている環境、手掛けている人の姿や努力を見聞きできる映像や資料を見ていただけるようにします。「共感」「ストーリーの共有」を大切にしたいと考えており、またその機会提供を都心の役割の一つにしたいと思っていますからです。会期中平日は毎日定時にネットで産地と繋がり、製作風景、作業の現場、ものづくりへの想いなどを紹介してもらい、大名の会場とのインタラクティブな交流をライブ配信とともに録画していきます。心の繋がりが生まれれば、その場で



の購買以上の長い縁に育っていくのではと期待しています。またそうやって積み重なっていく映像を、One Kyushu ミュージアムのフィルムライブラリーにするつもりです。

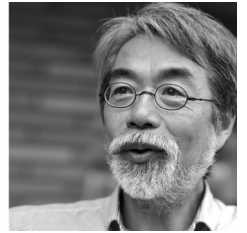
週末、祝日は前述の専門家をお願いし、いろいろなセミナーを企画しています。お茶と焼きもの

の組み合わせにオリジナルのスイーツを楽しみながら解説を聞く、九州で作られるワインをその風土とともに学びながら味わう、有名シェフに現代社会の食産業について語ってもらう、温暖化で変化する九州の気候を描く美術家にその問題意識を語ってもらう、などなど多彩です。共通テーマは「九州の時」。お茶が中国から九州に持ち込まれて900年、ワインが九州の武将に献上されて500年、豊臣秀吉の朝鮮出兵を機に始まった焼きものは400年、と時を辿りながら私たちの暮らす九州を振り返り、そして未来の九州を考える機会になればと願ってこのテーマを考えました。

複数の会場を訪ねながら、来訪者にはぜひまち歩きをしていただきたいと思っています。同じ大名にある書店・ジュンク堂さんには、関連書籍が平積みされています。大分県の拠点施設であるカフェでは九州のワインを飲むこともできます。そしてまちにどのくらい滞在してもらえたか、何度も来てもらえたかなどをITを用いて計測、都心での人の動きや滞在時間がこの企画を通して変わったかどうかを分析していくのです。またネット上の動画配信の視聴状況、産地のウェブサイトへの訪問数も測ります。リアルとオンラインどちらも対象にしたデータの取得と分析は、同様の取り組みや、これからの都心のまちづくりを考える際の参考になるのではないかと考えているからです。

いろいろ構想するうちに、これを福岡だけで行うのではなく、九州の各県庁所在地でリレー開催していったらどうかと思うようになりました。どの都市も中心市街地に空き店舗があるはずで、そこでもこの実験を行い、コンテンツをもっと広げていくと、回を重ねるごとに「九州は一つ、One Kyushu」が近づいてくると思うのです。そのためこの秋の会期中に、各地のまちづくり活動家とのオンラインディスカッションも公開で行う予定です。この社会実験が、人の心を豊かにするこれからの都心の役割の扉を開けたらと願っています。詳細はホームページ (<https://onekyushumuseum.com/>) に記載しています。関心をお寄せいただけたら幸いです

「建築基本法」新たなパラダイム構築に向けて



鮎川 透 (福岡地域会)

昨年（2019年）建築士法が改正されて、今年から新たな受験資格等に基づいた建築士試験が始まった。この改正は三会（JIA・士会・事務所協会）の共同提案により議員立法で成立にこぎつけたものだった。言うまでもないが、JIAは建築設計を専らとする職能団体、建築士会は建築士法に基づいた技術資格団体、事務所協会は建築士法に基づいて活動する業務団体、ということを確認しておく。この三会鼎立の状況が我が国の建築設計を取り巻く環境の特殊性と言われているが、それぞれの思いの違いが事態を膠着させたり、合意の上タッグを組めば先述のように議員立法にまで可能にもなる。

「建築家」が今のように使われるのはそんなに昔からではない。そもそも辰野金吾らが1914年（大正3年）創立したのは建築士会、今で言えば「建築家協会」だった。当時日本建築士会と関西建築協会は設計施工分離を提唱する中、辰野金吾らは「建築士法」制定運動を行ってきた。しかし1925年（大正14年）佐野利器（当時建築学会会長）が時期尚早と反対、制定断念に至ったと言う。時を経て戦後、姿を変えて「建築士法」が現れる。1950年（昭和25年）戦災復興を背景にして「建築基準法」と「建築士法」が施行されて、1952年（昭和27年）各県にあった建築士会をもって組織する「日本建築士会連合会」が設立された。そこで、それまでの「建築士会」と言う呼称が使えなくなったのと、世界建築家連合（UIA）に加盟するため、1956年（昭和31年）改組して日本建築家協会（JAA）が設立され、「建築家」が会の呼称になった。その後さらなる発展を目指して1987年日本建築設計監理協会（専業設計事務所の団体）と合体して新日本建

築家協会（JIA）となり、1996年（平成8年）に新を取ったのはご案内のとおり。事務所協会はさらに新しく、日本建築士事務所協会連合会（日事連）は1962年（昭和37年）設立、2000年（平成21年）改正建築士法の施行により法定団体になった。

先述のような三会の成立過程を見ても、別表（各資格の仕様）を見ても、JIAが試行する建築家資格制度（登録建築家）の背景に、建築家の職能を規定する法体系がなく「建築士法」に基づいた建築士という技術者資格しかない。視点を変えて社会（消費者・発注者）から見て、建築家とはどのような仕事をどのようにする者かという像を結びにくいのが実情である。華々しくマスコミに取り上げられている一部の人を、「建築家」という肩書きで呼んでいることを見ても明らかである。建築士法第1条に「建築物の設計、工事監理を行う技術者の資格を定めて、その業務の適性をはかり、もって建築物の質の向上に寄与させることを目的とする」とある。また他国の例にある、依頼者や社会への責務をも規定した職能資格ではなく国際的な互換性にも乏しいと言える。つまり、この職能を統制する資格制度において、公益保護と公益寄与を基軸に、個人の技術能力だけでなく、個人に帰属すべき業務倫理と責任が規定されることが必要である。そのような視点に立って、広く日本の社会において「建築家」という職能を考える時に、現状の枠組みに止まっていて展望は開けない。「登録建築家」を見ても明らかのように様々な矛盾を内包している。また「建築士」は2019年4月現在、一級建築士は373,490人で最高齢者140歳超、法定講習受講者7万人程度、という理解に苦しむ状

況であり、どこも実活動建築士の人数を把握していない。国家資格においてこのようなことが放置されていて、社会の付託に答えられると言えるだろうか？建設産業全体を見通して、教育・資格・業務・呼称・報酬・等等を俯瞰的に網羅し位置づけするために、現行法の上位に基本法（例えば「建築基本法」）を制定するほかには、現状から抜け出す手はない。もう戦後ではないと言われて50年たった今、昭和25年以来つぎはぎだらけの建築基準法や建築士法また建設業法等等では日本の建築文化を支え育てるには心許ない。冒頭に述べたように三会や四会五会と力を合わせて、なんとか新たなパラダイムの構築が必要と思うのは私だけではないと思うのだが・・・

	弁護士	医師	一級建築士	登録建築家	
根拠法	弁護士法	医師法	建築士法	(JIAアコード)	
監督官庁等	なし	厚生労働省	国土交通省	公益社団法人	
業務独占	あり	あり	あり	なし	
名称独占	あり	あり	あり	なし	
資格の更新制	なし	更新ではないが2年に一度、所在・診療科目確認	なし	あり@3年	
業務報告	なし	なし	建築士事務所の業務報告年1回	疑義ある場合のみ更新時に報告	
業務登録の要否	弁護士会への登録が必要	開設には自治体の許可が必要です。	建築士事務所登録	認定後に登録（個人）	
業務主体と資格者	弁護士法人／弁護士個人	勤務医／開業医	事務所解説者／管理建築士	建築家個人	
職能研修	継続研修	各種研修あり（参加は自由）	医師会、学会の研修制度	法定定期講習@3年	CPD
	その他	倫理研修のみ義務	日本専門医制度機構による資格認定、更新	管理建築士講習の受講義務1回限定	
資格者に求められる資質	職能倫理	○	○	△職責（2条の2） (品位保持、公正・誠実)	○
	公益性	○	○	△職責（2条の2） (法令・実務精通、質の向上)	○
	その他特徴				自律性／第三者性＋文化性を実現しうる資質
資格における罰則	懲戒処分（自治）	医道審議会による行政処分	戒告・業務停止・免許取消・罰金・懲役	登録の削除	
行政処分を受けた資格者の情報公開		概要のみ公開	国土交通省のHPに掲載	処分期間中登録削除	
報酬規定 専門表示	各弁護士事務所ごと なし	診療報酬（厚生省） あり	各事務所ごと。ガイドラインは告示38号（努力義務法22・3・4）一部あり	なし (親族的立場のみ)	

「毎月の公開例会を続けてきて思うこと」

福岡地域会では、地域会運営を話し合う役員会とは別に、会員以外も誰でも参加できる公開例会を、ほぼ毎月行っています。地域会活動報告に始まり、協力会のショートセミナー、そして講師を招いての講演会や座談会、作品を持ち寄ってのクリティーク等、毎回異なるテーマで120分、熱い討論を交わしています。終了後は例会だけでは飽き足らず、懇親会へとなだれ込み、世代・職業を越えて熱く、楽しく、深夜まで語りあかしています。最近ではコロナ禍で、この公開例会を出来たり出来なかつたり、もどかしい日々が続いています。そもそも毎月行う公開例会は、8年前の川津悠嗣地域会長（当時）時代にスタートしました。それまでも、技術研修会・例会は行われていましたが、研修会は集まりも悪く、例会は会員の集まりは良いのですが、回数が少なかったため、活発な活動にまでは至っていませんでした。そこで、

福田哲也(福岡地域会地域会長)



「正会員だけでなく、協力会も一般の方も、分け隔てなく」「毎月同じ曜日、同じ時刻、同じ場所に皆で集まって語り合う」公開例会を企画始動させました。川津氏に、スタートして間もなくは運営していくメンバーも少なく、認知含めてかなり苦労があったこと、とにかく続けることだと仲間で企画し続けたこと、当時を振り返り話していただきました。例会の流れはその当初から現在までほぼ変わっておりません。しかしながらこの8年の間にも社会状況が変化し、またそれぞれの地域会長のカラーで例会の内容は変化し、その都度時代を反映した公開例会が行われてきたように思います。

川津氏から地域会長を引き継いだ松山将勝氏は、例会会場を協力会のセミナールームから地階のバーに変更し、毎回若手会員を多く集めて順番に各自の作品を発表してもらい、先輩や仲間からの厳しくも愛のある指摘を

もらい語り合う、クリ
ティーク会を夜な夜な
開催しました。JIAサ
ポートによる、福岡県
弁護士会館プロポーザ
ルが行われた際は、一
次審査で落選した会員



松山会長時代の地階のバーでの例会風景

を集めて発表してもらい、実際の審査員に講評をもらう
という、JIAならではの企画も開催しました。そこには当
選した古森弘一氏も、最終プレゼンまで残った会員も同
席して、どこが違うのか、何が足りないか、会場皆で議
論を交わしたことを思い出します。その後はいつも同一
会場で引き続き懇親会を行い、遅くまで酒を酌み交わし
ました。お店が閉店となり、会場変更せざるおえなくな
りましたが、月に一度夕方から貸し切りで場所提供して
いただいたお店の方には、今でも感謝しています。

松山氏から田中康裕氏に地域会長がかわり、世代間の
交流を意識した例会が行われるようになりました。会場
はキャナルシティ近くのライブパブ、懇親会ではライブ
パブのハコバンドの演奏があったり、私も先輩方と大い
に盛り上がりました。しかし、田中氏の地域会長時代に
世の中では大きな出来事が起こりました。熊本地震で
す。地震のことはここでは割愛しますが、例会でも、JIA
災害対策副本部長の
岡部則之氏、JIA東北
支部宮城地域会復興
支援委員長の手島浩
之氏を招いて復興の
状況や、震災復興に
おける地域の建築家
の役割などお話しいただき、目の前の大きな課題に、多
くの会員で共通意識をもって取り組んでいきました。



田中会長時代のライブパブでの例会風景。
東北支部の手島氏にお越しいただきました。

田中氏から佐々木寿久氏に地域会長がかわり、例会も
更に開かれたものとなり、参加者も60名から70名を超え
る例会も増え、多くの方に認知される会となってしま
した。会場も、古いマンションのワンフロアをリノベー
ションしたスペースで、ホームパーティーのような気楽さ

で開催したり、協力会であるアイカ工業さんやカッシー
ナさんをお借りしての開催と色を変えながら、「参加し
たい！」例会を目指して毎月開催いたしました。今年初
めには、公開例会×建築塾×支部役員会×地域交流会と
いう4つのイベントを一堂に開催する暴挙に出ましたが、
その際も公開例会では、松岡恭子氏に天神ビックバンを



佐々木会長時代のホームパーティーのような例会風景

からめて講演をい
ただき、合同イベ
ント前夜祭とし
て、建築家、協力
会員、事務所ス
タッフ、塾生、一
般の方混じっての
活気ある会が開催されました。これは今まで続けてきた
例会の一つの集大成であったように思えます。

そして今年度からは私とその役を引き継ぎ、担当委員
長の智原聖治氏とともに、「入りたいJIA！」をテーマに
発信力のある例会を目指して企画をスタートさせまし
た。コロナ禍で思うように集まることも難しく、それ
でも7月後半には三密を避けながら対策を講じて例会を開
催し、福岡地域会の建築を発信する意識、参加者には少な
からずその熱量は伝えられたと思います。しかしそれ
から2か月、やはり例会を開催できない現状があります。コ
ロナ禍のイベント運営の難しさを痛感しておりますが、
このまま止まっているわけにもいきません。そこで見
切り発車になりますが、10月からの例会はオンラインで
開催してみます！今まで参加が難しかった、福岡以外の
建築家の方々や、事務所スタッフの皆さん、また福岡、
それ以外の大学・専門学校の学生の皆さんにも、気楽に
参加いただいて、みんなで更なる建築の魅力を発信して
いきたいと考えています。そのための企画も現在考案中
ですので、皆様どうぞご期待ください。また、積極的な
ご参加をお待ちしております。



現地見学会の後、例会を協力会さん会議室をお
借りして開催しました。

会員事務所での例会風景

『アノコロ と コレカラ』

衛藤 元弘 (大分地域会)



私がJIAに入会した年は、事務所を設立して3年目の1992年です。JIA大分地域会の創設者で九州支部長も務められた(故)「辻 隆司」氏(19年勤めた事務所のボス)からの声掛けで、当時の「新日本建築家協会」へ入会しました。生前から辻氏は、JIAの役割として設計者の職能確立や社会での役割等をよくお話になっていました。そのため興味はありましたが当時は少し重荷になっていたように思います。

1998年「西岡 弘」氏が2期目の九州支部長になられた年に、私は広報委員に指名され、当時の広報委員長の「斎藤政雄」氏(福岡会)のもと、各地域会の委員と共にブルテンの制作に関わる事になります。持ち回りでブルテンの表紙取材と、その表紙の説明文を編集後記の一部で記載したことや、編集会議後の楽しい懇親会の思い出もあります。薄い冊子ではありましたが、この冊子が手元に届くと各地域会の委員とのつながりを感じたものでした。1999年にJIA大分地域会主体で大分県内の数多くの建築家を募り、1年近くの時間をかけて「大分の建築家の本」の企画を検討し発行に力を注ぐことになります。この企画で県内の多くの建築家が自らの作品発表の場を求

めていた事がわかり、その後の企画の足掛かりとなったのではないかと思います。

2004年「田島正陽」氏が九州支部長の年に、大分地域会の会長に指名されました。本来この2年後に大分地域会会長の任につく予定でしたが、地域会の諸事情で2年早い大分地域会会長就任となり戸惑った事を思い出します。この頃の大分



地域会は、地域の中での建築家像の在り方に個々に意識のずれが生じ、地域の中でのJIAの発言力の乏しさにともすれば会員の結束力が失われそうな時期でした。中には大分会解散の声すらあがる始末で、地域例会は閑散とし、支部役員会の報告だけの場になってしまい、九州支部各委員会担当者を割り当てる事に苦慮していた時期でした。そのため、会長就任早々の支部役員会の席で、支部の委員会参加について、1年間の保留をお願いし、田島支部長をはじめ各地域会会長にご迷惑とご心配をおかけした事は今ははっきりと心に残っています。

大分地域会会長に就任してからの2年間は、あわただしく活動した事を思い出します。会員に声をかけ、大分会の結束を取り戻すことに賛同して頂いた少数の会員とともに始めたことは、1999年に「大分の建築家の本」を発行してから6年たったこの年に、2冊目の「大分の建築家の本」の発行に向けてスタートすることでした。私の会長在任の間に発行はできませんでしたが、2006年私の会長退任の年によく「大分の建築家の本vol12」の発行にこぎつけることとなります。この企画が少し大分地域会会員の引き戻しになったのではと感じています。

建築家の本発行に合わせ、掲載建築家による「建築作品展」を同時開催し、大分県内4市で巡回展を催すことにな





ります。作品展開催にあたり、若い建築家たちに声をかけ、会場設営のプラン、作品展のネーミングの提案、パンフレットの制作を託し作品展の開催に臨みました。そしてこの作品展のネーミングが「+A・・・2006建築作品展」となり、後に

若手建築家等の集団「+A」に発展し、大分地域会が陰ながら支援することになります。この作品展の開催と巡回展の試みは、この若手建築家の力がなければ良い結果は得られなかったと思います。彼らの推進力が次のJIA大分地域会の力となってくれれば・・・とっていました。



2009年に「和田正樹」氏が九州支部長の年、大分地域会で九州支部大会の開催を任せられ、支部大会実行委員長に就任し、大会に向けて大分地域会一丸となり取り組んだ事を懐かしく思います。JIA会員のほか「+A」メンバー、地元建築士、建築系大学研究室、賛助会員などの多くの方々の協力を頂き、「出江 寛」氏(当時次期JIA会長)をお招きして大変思い出深い支部大会になりました。この頃は大分地域会の結束も強くなり、活動に勢いが出てきたと感じていました。



2013年「水野 宏」氏、2014年「角銅剛太」氏、当時の支部長お二人それぞれの1年に私が本部理事を命じられ、お二人と共に出席したJIA本部での白熱した議論は大変刺激的な経験でした。特に角銅支部長との理事任期の時に、理事会で「登録建築家」の問題が浮上し、本部・支部・地域会の間で理事枠2席の内の1席を担い、一票を投じるときに重責を肌で感じたことは、貴重な経験だったように思います。角銅支部長とお酒を飲みながらよく議論したことを思い出します。2016年・2017年と2期目の角銅支部長から支部の監査に指名され、「西岡 弘」氏と2年間共に監査役を務め、2018年に退任致しました。これで支部の役割を終えたと肩の荷を下ろしたことを覚えています。

その後2年を過ぎ、大分は、地域会を卒業する方あり、入会する方あり、と新しく生まれ変わろうとしています。2006年の「+A建築作品展」の開催から、現在では「+A」出身者から6名のJIA会員が誕生しています。本年度から新しい執行部となり、初代「+A」の代表がJIA大分地域会の会長に就任し、大分地域会は若い執行部のもと地域に貢献できる新たなJIAを目指して進み始めました。新生大分地域会は各地域会との連携で新たな歴史を積み重ねていきます。各地域会と共にJIA九州支部の原動力になって頂きたいと心より願っています。

『萬屋錦之介夫妻の色紙』・『村野藤吾先生』・『松下幸之助氏の墨蹟』



中俣 知大（鹿児島地域会）

エキスポ70の『松下館』を見たとき機械工学科の学生だった。竹林に囲まれた湖水面に、総障子張りの御堂が映る光景を見て、建築はなんと素晴らしいものを創造できるのだろうと感動した。吉田五十八氏の設計であった。私は1年間の



休学届を出し、ヨーロッパ建築見聞のヒッチハイク旅行を計画した。帰国後復学し、建築を学んだが、日本建築を志すことにし、江戸数寄屋の雄：石間工務店の門を叩いた。設計部は10名ほどのスタッフで、皆さん茶室・数寄屋の“おたく”の集団であった。同社は赤坂の料亭の八割以上を設計施工で占有し、特に政治家の利用により“料亭政治”で有名になった『料亭・中川』は現在、役目を終え、松山市に移築されている。九州では博多・那珂川沿いの『料亭・満佐（まさ）』は石間工務店の作品である。入社して最初の

万博・松下館：吉田五十八氏設計 仕事はロッキード事件で被告になっていた児玉誉士夫氏の応接室のペースを裁判資料として描くことであった。施主には、歌舞伎役者をはじめ長嶋茂雄氏、黒川紀章氏（自邸の茶室依頼）など著名人が多く、私は鶴沼の萬屋錦之介邸の増築工事を担当する機会をいただき、錦之介さん・淡路恵子さん夫妻との知遇を得た。錦之介

さんは後年、私の帰郷後の鹿児島・薩摩川内での劇場公演の楽屋で会うことができた。また、靖国神社敷地内の便殿（びんでん：天皇陛下の休憩所）・「和室二間続き」を担当したのは光栄であったが、昭和天皇は対外的配慮もあり、御崩御までに一度もご利用されなかったそうである。機会があつて30年後に訪問した時にわかった。村野藤吾先生との仕事は貴重な体験であった。品川の新高輪プリンスホテルの敷地内に計画された広間・小間・寄付きなど八席の茶席を備える大茶室は大林組の元請であったが、茶室は石間工務店に任され、建築の現場事務所で1年間施工図を描いた。村野先生は大阪から月に2回ほどのペースで現場に来られ、準備した施工図を長めに持った鉛筆でチェックされたが、その線はラフな



錦之介夫妻の色紙



茶室の現場打合せ中の村野藤吾氏

デッサンのごとくで、どの線が最後の線だったか村野事務所のスタッフと議論するのが常であった。記憶に残る印象的なことは、平面図を廻して（正面を見ながら）の展開図スタディ、普通は隠そうとする野物を見せる解決法、脳裏にある典故・根拠をスタッフに紹介される謙虚さ・おおらかさ、幅が倍以上違う襖の引違いという意外性のある解決などである。しかし竣工まぢかの晩秋、定例打合せが予定されていた前日に心筋梗塞で亡くなった。93歳。現場監理までされた生涯最後の仕事となった。

そして松下幸之助氏の松下政経塾・茶室を担当した。学生時代、万博の『松下館』で出会った縁がここにつながったという思いであった。松下政経塾はご存じのように政治家を育てるための私塾であり、特に茶道や華道など日本文化を習得し



松下政経塾茶室『松心庵』と扁額

てほしいという幸之助氏の熱意のこもった施設である。幸之助氏は茅ヶ崎の工事現場を5～6名の隨身の方々と数回訪問された。茶室建築では茶室名を扁額（へんがく）という板に記し妻壁に掲げるのが常である。この茶室に名を付け『松心庵』と揮毫されたのは松下幸之助氏ご本人であった。書道用半紙に一枚一文字と名前・落款（一行目は練習）の記された計四枚を渡された。私は彫刻師や漆の塗師にそのコピーを渡して扁額を制作し、直筆は保管した。

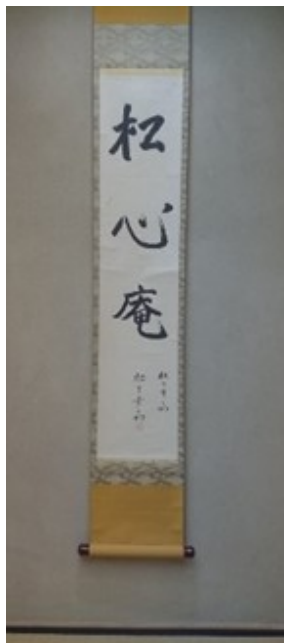
その直筆・墨蹟は、退職時に懇意の上司に許可を得て、もらい受けることができた。帰郷・定着し設計事務所を開設してから、掛け軸として表装したのが左の写真である。依頼した表具師は、実に石間工務店表具師のもとで修業し鹿児島で開業していた友人であった。すなわち、この墨蹟は松下政経塾茶室『松心庵』の妻壁にか

かっている扁額の原本である。

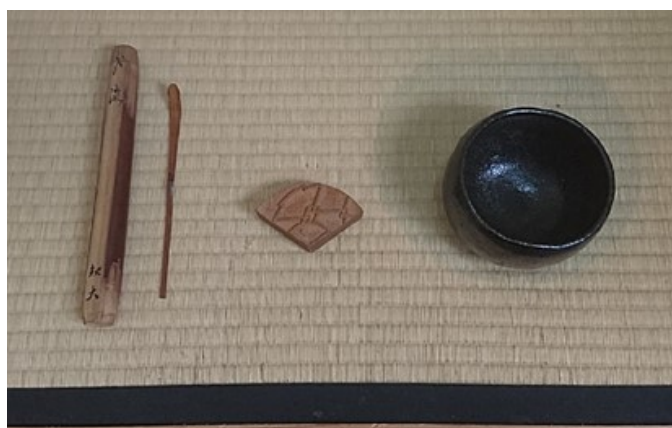
『松心庵』は松下政経塾出身の政治家・実業家たちがことごとく学ぶ茶室であり、『八畳席』と『二畳中板席』を備える。

余談。石間工務店の社員は茶道が必修で、週一度のお稽古はもちろんであるが、裏千家青年部という当時の組織の中で茶道具を作る体験は貴重であった。下の写真・左は左から茶杓筒、茶杓、香合、黒楽茶碗である。茶碗は長次郎作・国宝・銘『大黒（おおぐろ）』をスケッチして模した。茶杓は利休が切腹前の最後の茶会に自ら削り出し、弟子の古田織部に与えたものにあやかった。織部はその茶杓に『泪（なみだ）』という銘をつけ、茶杓筒に窓を開けて利休の位牌代わりにしたといわれる。しかし、その厳粛なエピソードを敷衍（ふえん）し、自作の茶杓に（泪の

『流れ』と銘したのは尊大であったかと思う。



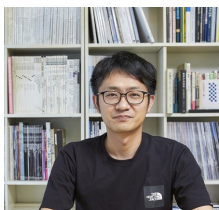
『松心庵』の掛け軸



茶杓筒、茶杓、香合、黒楽茶碗： 自作



黒楽茶碗・国宝・銘『大黒』の模写： 自作



一丸 康貴 (長崎地域会)

この度、JIAに入会致しました一丸と申します。

長崎を中心に設計活動を行っております。熊本県芦北町の出身で、幼少期は山、川、畑と自然豊かな環境、田舎ならではの地域コミュニティの中で育ちました。その影響もあるのでしょうか、計画する上でも自然との関わりや、地域との関わりを意識する事が多いように感じていますが、私自身まだまだ自分の中での理想の建築がどのような建築(空間など)なのか、抽象的なことが多い様に感じています。これから、一つひとつ建築と向き合っていく中で、私自身の建築理念(考え方)を表現していきたいと考えています。2019年6月に立ち上げたばかりの事務所であり、まだまだ未熟ではありますが、JIAの活動を通して、設計力や表現力を高めていきたいと考えています。よろしくお願ひ致します。



長崎市稲佐山スロープカーの中腹駅舎



荒木 恒介 (福岡地域会)

この度入会いたしました荒木と申します。学生時代から20年近く東京と名古屋で過ごしておりますが、40才を目の前にして、生まれ故郷の久留米で独立して活動しております。現在は北部九州を中心に福祉、幼稚園、学校などの設計に携わる機会をいただいております。独立以前から、社会的な建築に携わることが多く、クライアントやプログラムの要求に応えながらデザインを考えていく機会が多かったように思います。大都市にいた頃は地方の仕事や多様なビルディングタイプに触れる機会も多く、新たな発見や学びの連続で大変刺激的な毎日を送っておりました。デザインスキルや表現力で語られることが多い建築家に求められるものが、技術力、クライアントや施工者とのコミュニケーションスキル、知識力、そして何より自分自身の建築哲学に裏打ちされていることをよく考えさせられたものです。地方都市で独立して数年が立ちますが、地元の建築家しかできない、地域社会に寄り



添うような設計活動ができないかと自分なりに考える機会が増えてきたように感じます。地方都市では、建築家という言葉自体がまだまだ馴染みが薄く、建築家は設計活動以外にも地域社会に入り込んでいく必要があるのではないかと考えています。建築家という職能についてはもとより、地方都市における建築家のあり方について考えるきっかけになればと思いJIAに入会させていただきました。今後ともよろしくお願ひいたします。

**新田 崇博** (福岡地域会) ジュニア会員

この度、JIAに入会致しました新田と申します。福岡、佐賀、長崎など九州北部を中心に設計活動を行なっております。主に住宅や賃貸住宅、店舗の設計を多く手掛けています。

地方での依頼が多いためか、比較的広い敷地や自然豊かな景色に対しての設計を多く手掛けさせていただいています。そのため設計を行う際、自然との関わりを意識して取り組む様になりました。その自然とは景色の様な森や木々、山々や海だけに限っているわけではありません。雨の音、木々の香り、風の揺らぎ、差し込む光、極端に言いますと目に見えない空気さえ五感で感じる事全てを自然と捉えて、建築がその自然とどう対峙するか、関係をいかにシームレスに繋げていくか模索しながら建築を考えております。近年は日本に昔からある軒や縁側などの中間領域を現代のデザインに置き換え、屋根や開口部、壁、柱のあり方を分解し再構築していく事で人間の精神に訴えかける様な自然との向き合い方ができないかという事を中心に取り組んでおります。

今までは住宅や店舗など、個別のクライアントの為の建築に多く関わる事が多かったため、社会の中で建築に関わる事が少なかった様に感じております。今後JIAを通して建築文化の発展や地域活動などに関わっていただけたら幸いです。まだまだ無知な事が多く、教えて貰うばかりになってしまうと思いますが、JIAの活動に貢献できるよう精進していかれたらと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



「長与の家」写真：田中克昌

③ 本部委員会・特別委員会活動報告			
1	総務委員会	下山道男	
	1. 苦情対応WG見直し検討の中間報告： 2. 国際委員会の委員を各支部より選出：副委員長が非会員である件 3. 正会員の勤務先変更の件（土木コンサルタント） 4. 資格制度規則・細則・マニュアル改定案について：全面的に改訂して条文が複雑になっている		
2	広報委員会	委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次	添付資料①
	6月末に支部広報誌ブルテンの発行を行った。会員にメール配信しホームページ公開中。 9月末発行に向け準備中（別添付資料）。新ホームページのアクセス解析と各地域会のイベントなどの告知を支部ホームページ掲載の流れについて資料を提出します。		
3	教育委員会	田中康裕	
	・報告事項なし。		
4	表彰委員会	鯨坂徹	
	・報告事項なし。		
5	建築家資格制度実務委員会	委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久	
	7/16 職能・資格制度/建築家資格制度実務 合同委員会 WEB会議開催 支部認定評議会をなくした規則類の整理作業終了。 8月中旬までに松山支部長、柴田理事に「建築家資格制度規則」「細則」「マニュアル」の改正点の理事会前の事前説明を行う。		
6	財務委員会	柴田真秀	添付資料②
	7月14日webによる会議、新任の紹介、今年度活動計画について、山口委員長より報告があり、活動助成金に対し、各委員からの意見があった。		
7	業務委員会	和田正樹	
	・報告事項なし。		
8	全国学生卒業設計コンクール実行委員会	田中康裕	
	・6月23日、7月15日に委員会開催 10月3日開催予定のコンクールについて、web開催の運営方法、各支部地域会の出展者に対するフォロー方法、協賛依頼状況などについて協議。 九州支部では、出展者6名に参加方法（自宅から、JIA事務局からなど）を確認中。 ※コンクール出店作品数：51作品程度		

④ 全国会議活動報告			
1	JIA災害対策会議	原田展幸	添付資料③
	6月25日(木) ZOOM会議：原田欠席 ・SDGs建築フォーラム 4会議合同会議の要点説明。フェイズフリーという概念によって、 どういう関係性があるのかと言われている4会議を串刺しにできるのではないか。 ・ネパールの仮設住宅再利用事業について、確認申請を取り付けたが、衛生上の問題があって現在頓挫 している。陣頭式をとっていた福島地域会芳賀沼氏が他界され、今後の進展が困難な状況。 ・その他、合同会議に向けた意見交換。 7月9日(木) ZOOM会議：原田出席 →意見交換が中心の会議となりました。		
2	JIA保存再生会議	田島正陽	
	・文化財修復塾と連携開催 → 8月8日熊本現地講習会開催		
3	文化財修復塾	鯨坂徹	添付資料④
	1. 8月8日、熊本で現地講習会開催 2. コロナの影響で各支部とも活動報告無し、予定が立てられない 3. 昨年度の修了者は14名(九州は森浩会員) 4. 修了者の呼称を「ヘリテージアーキテクト」で協議中 5. 座学をZoom等で行えるように検討を進める 6. テキストの作成を検討する		
4	文化財ドクター	柴田真秀	
	・活動なし		
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次	
	7月19日 本部事務局へ2019年度支部内の建築相談件数をメールで報告。 2019年度九州支部内相談件数 合計 22件 内 事前相談・一般相談数 9件 内 トラブル相談数 13件		
5-2	・JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
	下記の建築相談に対応しました。 6月11日福岡 一般 築13年外壁(縦張サイディング)がずれ落ちる件 6月16日福岡 一般 北側法面崩壊による傾斜する住宅建築の中長期修繕について 7月9日福岡トラブル 敷地地盤下にかげきが見つかり構造上問題はないか 7月6日鹿児島トラブル 昨年9月に購入した中古住宅の雨漏りの件		
6	JIA環境会議	福田展淳	添付資料⑤-1, ⑤-2
	(5月27日(水) 18:00～20:00 5月度JIA 環境会議 (Zoomオンライン会議) 出席) 議事録添付 JIAマガジン9月号 SDGs関連九州支部活動及び作品紹介原稿執筆 7月2日(木) 15:00～17:20 JIA関東甲信越支部・環境委員会主催『改正省エネ法』情報交換セミナー 聴講 7月27日(月) 18:00～20:00 7月度JIA 環境会議 (Zoomオンライン会議) 出席予定		
7	JIAまちづくり会議	松島逸人	
	・新企画JIA会員が選んだ、「自分の廻り(県)のお勧め建築」特集企画について		
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男	
	25年賞の委員会の開催はありませんでした。 1 締切が7月31日に変更になりました。 2 九州支部からは、熊本、鹿児島からの応募を確認しています。		
9	国際委員会	佐々木寿久	添付資料⑥
	・7/16 WEB会議参加 ・今までの国際交流会議の経緯が報告された。 →今年はWEBを中心に開催。(添付資料⑥(国際委員会))		
10	業務委員会パンデミックWG	柴田真秀	添付資料⑦
	・7月10日webにて第1回開催		

③ 本部委員会・特別委員会活動報告			
1	総務委員会	下山道男	
<ul style="list-style-type: none"> ・入退会の審査：退会者の所属する地域会、支部で協議して上がってきているので承認をする ・新入会基準の業種見直し（デベロッパー、コンサル、金融機関等、事務所登録が条件） ・組織再編成：フレッシュマンセミナー、住宅等会議（準備会WGで行う） ・苦情対応WGの報告：フローの作成（建築相談との分業） ・委員会規程の改正：国際交流、広報委員会について、非会員、オブザーバーが多い点や、各支部から委員が出ていない点を改善する ・資格制度規則の改正：森委員長が理事会で報告する（変更が細部に亘りすぎている点が問題） ・文化財修復塾と一般社団法人との提携については、理事会で森委員長が報告をする 			
2	広報委員会	委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次	別添資料 ①
<ul style="list-style-type: none"> ・9月末発行ブルテンVOL2の準備中。8月末に執筆依頼を行い9月17日より編集作業を行います。（別紙参照） ・ホームページやSNS更新を行いました。HPNEWS投稿方法について（別紙参照） ・HPの改善点等を各地域会に問いかけて期日を切って意見を求めるよる予定です。 			
3	教育委員会	田中康裕	
<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項なし。 			
4	表彰委員会	鯉坂徹	
<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項なし。 			
5	建築家資格制度実務委員会	委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久	
<ul style="list-style-type: none"> ・2021年2月の登録・更新に向かって作業準備中。支部認定評議会廃止による規定・細則・マニュアルの改定案を8月の理事会で協議済。 			
6	財務委員会	柴田真秀	
<ul style="list-style-type: none"> ・8月18日第2回財務委員会がWEBで行われました。 主な議題は、JIA事業活動助成について。 			
7	業務委員会	和田正樹	
<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項なし。 			
8	全国学生卒業設計コンクール実行委員会	田中康裕	
<ul style="list-style-type: none"> ・9月8日にリハーサル、委員会を開催予定。 			

④ 全国会議活動報告			
1	JIA災害対策会議	原田展幸	
・報告事項なし。			
2	JIA保存再生会議	田島正陽	
・報告事項なし。			
3	文化財修復塾	鯨坂徹	
<ul style="list-style-type: none"> ・各支部の活動はコロナの影響で中止や延期 ・修復塾修了者の呼称を「ヘリテージアーキテクト」とするよう推進中 ・現地講座をYouTube配信で検討中 ・修復テキスト製作を進める ・近畿支部で、近現代建築パネル展（京都）の準備中 			
4	文化財ドクター	柴田真秀	
・報告事項なし。			
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次	
・報告事項なし。			
5-2	・JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
下記の建築相談に対応しました。 7月28日鹿児島トラブル 新築半年の住宅基礎コンクリートのシミについて 8月12日福岡 トラブル 1年前に新築した注文住宅の基礎下の瓦礫について 8月24日福岡 一般 近隣に建つ新築マンションの影響について			
6	JIA環境会議	福田展淳	
・報告事項なし。			
7	JIAまちづくり会議	松島逸人	
<ul style="list-style-type: none"> ・新企画JIA会員が選んだ、「まちなみレビュー」特集企画について ・お盆前から、SDGsフォーラム4会議合同WGの件で、各支部の事業の活動がどれに該当するか等の協議をメール交換で行っています。 ・新企画「まち並レビュー」の件で、本部を介して、関東甲信越支部新宿地域会さんを紹介いただき、類似事業の先輩として相談に乗っていただいています。 ・著作権等の問題の対策等を顧問弁護士の矢野間先生にも相談させていただいています。8月末をとりあえずの目標に、候補の情報を支部事務局から募集させていただいています。 ・長崎、大分、熊本、鹿児島から5案ずつ程度情報を挙げていただいています。 ・反響をいただき、御理解と御協力をいただいています事大変嬉しく、感謝しています。 ・引き続き募集を継続し、今後、多くの会員の皆さんと組み立て等を楽しく協議させていただきたいと考えています。 			
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男	
<ul style="list-style-type: none"> ・九州から熊本1件、鹿児島2件 計3件の応募がありました。 地域会での審査は終了しています。今回の役員会で協議し本部に提出。			
9	国際委員会	佐々木寿久	添付資料 ②
<ul style="list-style-type: none"> ・国際委員会主催によるWebinar開催予定(添付資料：講演リスト) 世界各地に住む日本人建築家が各国の建築について知見を紹介して頂くWEBセミナー(Zoom)です。委員以外にも参加可能なので是非参加下さい。			
10	業務委員会パンデミックWG	柴田真秀	
<ul style="list-style-type: none"> ・7月10, 27 8月6, 17日の4回WEB会議を行い、8月27日の理事会で報告しました。理事会資料添付 			

北福岡	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島
-----	----	----	----	----	----	----	-----

活動報告

○6月

- 10日：北福岡地域会第2回WS実行委員会
- 13日：九州支部第2回役員会
→Web会議（参加者：金子、塩釜、松島、杉野）
※議事録作成
- 23日：北九州市建築指導課への今年度活動予定報告
北九州市6団体連絡協議会事前協議（市担当者）
- 26日：本部2020年度通常総会
→書面表決（北福岡地域会：85.71%（36/42））

○7月

- 9日：九建日報よりの取材→13日投稿
- 14日：北九州市6団体連絡協議会事前協議（各団体代表）
- 16日：北九州市6団体連絡協議会事前協議（市担当者）
→開催日8月7日に決定
学生WS事業：各大学への募集要項の配信
- 20日：北福岡地域会第3回WS実行委員会
- 27日：北福岡地域会第3回役員会

※北九州市6団体は市内の建築に従事する本部及び支部のある6団体を指します。本年度はJIAが担当幹事となるので、6団体代表として各種協議を行っています。

地域会長あいさつ

地域会長：杉野友紀

この度の「令和2年7月豪雨」の災害に際し、甚大なる被害が発生致しました地域の皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。損害の軽微と一日にも早い復旧をお祈り致します。

本年度活動に関しては、コロナの影響下で仕事に対しても通常業務への移行が難しい中、地域会の活動も実質Webを利用したりリモート会議のみとなり、例年通りの活動は難しいと感じています。

本年度はアフターコロナを見据えたWebでの学生ワークショップを、JIA新人賞受賞者の中山氏を講師として準備を進めています。現状すべてがWebを利用したりリモート会議なので、Webならではの新しい試みも企画していますが、正直どう展開していく判断が付かず、手探りで模索している状況です。

また、Webならではのルーズさを発揮し、開催日程もはつきりしていませんが、何れにせよ皆様にもご案内していきますので、今後のご協力をお願い致します。

「日韓学生ワークショップ」開催スケジュール（予定）

- 8月10日：学生参加表明（仮参加）
- 8月20日：本年度課題の発表
- 9月15日：レポートの提出（課題に対する構想）→本参加
※構想に対しての指導（～9月末）
- 11月10日：課題プレゼン資料の提出（動画）
- 11月24日：公開講評会（Web）

北福岡地域会第2回WS実行委員会

- 日時：令和2年6月10日水曜日18：00～20：00
- 場所：Web会議（Zoomでの開催）
- 参加：安東、加藤、金子、後藤、塩釜、高濱、戸村、杉野
- 主な協議事項
- 日韓WS開催について
 - ・今後の運営について→Webを利用したりリモートでのワークショップのあり方について
 - ※スケジュール、構想案の提出
 - ・本年度は責任者を設けず、地域会会長主導で行う。
→各種担当をヒエラルキーなく振分け
 - ・韓国学生に対して
→案内は送り、参加是非は各大学で判断して貰う。
 - ・ZoomやYouTubeの機能について

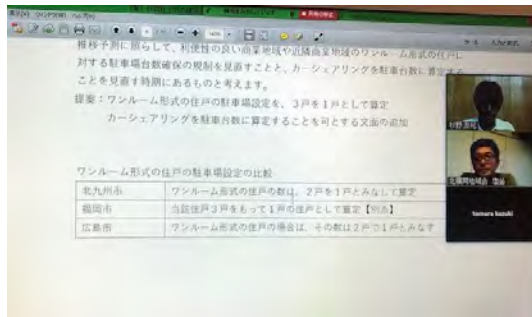
北福岡地域会第3回WS実行委員会

- 日時：令和2年7月20日月曜日18：00～20：00
- 場所：Web会議（Zoomでの開催）
- 参加：加藤、金子、塩釜、戸村、杉野
オブザーブ：石塚先生、佐久間先生（以上九工大）、近藤先生（日本文理大）
- 主な協議事項
- 学生実行委員会について
 - ・企画は問題ないが、課題や提出物について総て学生に負わせるのは困難であるので、大きな台本はJIAの方で方針を決める。
→課題等もJIAでいくつか雛形を作成する。
 - ・各大学によりコロナ対策は差があるので、臨機応変に対応していく必要がある。
 - ・提出物の動画に関して、学生は初めての経験となるので、ある程度の例を上げる必要がある。
→パワーポイントを使ったプレゼン程度
 - ・講師は新人賞受賞者中山氏に決定。
今後Webを利用した協議を行っていく。
→中山先生自身も大学の先生であるので、負担が増えないよう配慮する必要がある。
 - ・学生実行委員会メンバーは九工大3名、日本文理大2名の計5名で進めていく。



北福岡地域会第3回役員会

- 日時：令和2年7月27日月曜日18：30-20：00
- 場所：Web会議（Zoomでの開催）
- 参加：塩釜、戸村、杉野
- 主な協議（報告）事項
 - ・平田さんの退会希望について
 - ・地域会規約について
 - 概ね賛成だが、地域会にとっても影響が大きい
ため、会員の意見も訊くべき
 - 次期役員会まで、回答の保留を要望
 - ・6団体協議会について
 - 8月7日午後より市と開催予定。
 - 自然災害発生時の体制について、設計業務に
ついての対応要望等、質問項目の説明
 - ・日韓WSについて
 - 予算に関する協議。スケジュールの確認。
 - ・会計報告
 - ・次回九州支部役員会の案内（8月1日13:00～開催）



福岡地域会役員会 (第2回)

■日時：2020年6月20日土曜日17：30-19：00

■場所：天神ビル11階

■参加人数：17名

第1回役員会議事録確認

■審議事項

1.入退会について 法人協会1社入会、退会1社承認

■協議事項

1. 2020年度役員会の進め方

- ・開催日程の8回目を3/6、9回目を4/10に変更
- ・開催方法のWEB形式については今後支部と相談して判断する。

2. 例会、広報の2020年度事業計画

- ・例会予定表を説明し、承認。
- ・広報活動について説明し、承認。福岡地域会のプルテンは支部統合。

3. 各事業室、企画運営室の2020年度事業計画

- ・各事業計画について説明。
- ・CPDの活用方法について。例会はCPD対応。三会で県、市に申し入れの流れ。
- ・大牟田市市庁舎保存に関しては、プロポーザルも考えられる。
- ・国際交流は無し。
- ・建築相談30回予定。

4. 建築展の件

- ・過去イムズでの開催は会員全員47作品を展示。
- ・開催場所は福岡市美術館など視野に入れながら時期と場所については執行部で検討。

5. その他

①地域会規約(案)について

- ・関東甲信越支部をベースに作成
- ・継続審議として秋までにまとめる。

■報告事項

1. 会長報告 (福田地域会長)

- ・協会会ポーリング大会のお知らせ
- ・本部総会の出欠表の返信率は支部75%、地域会72.23%
- ・建築25年賞のお知らせ

2. 九州支部長報告 (川津会員)

- ・学生支援500万円基金の実施
- ・SDGsフォーラム、支部大会、建築塾の中止

3. 事業室報告 (田島室長)

- ・前述8.協議事項と重複のため割愛

4. 企画運営室報告 (村上室長)

- ・本年度デザインレビューは佐賀大学が実行委員を担当する。

5. その他 名誉会員の件

- ・日比生氏が名誉会員として登録。

7月公開例会「自作を語る」

講師：建築家 荒木恒介氏、新田崇博氏

■日時：7月22日水曜日18時00分例会開始

20時00分同一会場地下にて懇親会

■場所：天神ビル 会議室11号室

JIA新会員である両者にスポットを当て、自らの作品についてレクチャーしてもらった。新田氏は処女作の自邸と近作5つの住宅について自身の設計方法を語ってもらった。作家性が作品を作り続けることで独自性を強めていく中、一作品だけ垂流が感じられた住宅に対し、先輩建築家からその危うさに指摘が入るなど熱い議論が交わされた。荒木氏は地元久留米で独立して間もないこともあり、2作品のみの説明であったが、自身の設計に対するスタンスは明解で誰もがわかりやすかった。組織事務所時代に培われたであろう設計プログラムに対する緻密なアプローチは作品にも現れており、施主に対しても信頼をおけるデザインにつながっていた。新田氏は主に住宅系、荒木氏は中小規模施設系と両者の立ち位置は今は異なるけれど、建築家として、JIA会員として更なる高みへ登っていきだろう。コロナ禍の中、ウィルス対策を取りながらの開催ではあったがJIA活動の柱の一つである例会が無事に行えたことは、参加者の協力なしにはできなかったと思う。コロナの終息を祈りながら、例会を続けていけたらと思う。参加人数35名 (担当：智原聖治)



7月公開例会 風景



第2回 福岡地域会役員会風景

建築相談室

建築相談室では事務局と市役所にて月3回建築相談を受け付けています。2020年度は12名の建築相談員で市民の相談に対応していく予定です。4,5月は感染防止のため建築相談を自粛。6月より活動再開しました。2019年12月から7月は下記の相談対応を行いました。

○12月12日 一般 築32年のハウスメーカー住宅の建て替えか改修工事の相談。二世帯住宅ヘリニューアル(担当:加藤、有吉)

○12月17日 トラブル 追加工事見積金額の妥当性について(担当:樋口、西村)市役所

○2月27日 トラブル 地盤沈下によるクロスのみび割れについて。現地調査実施済(担当:永田、西村)

○6月11日 一般 築13年外壁(縦張サイディング)がずれ落ちる件(担当:西村、有吉)

○6月16日 一般 北側法面崩壊による傾斜する住宅建築の中長期修繕について(担当:井上、有吉)市役所

○7月9日 トラブル 敷地地盤下にがれきが見つかり構造上問題はないか(担当:川津、西村)

7月22日は17:30より19:00まで相談員相互の事例の検証、相談回答の統一化を目的とした建築相談定例会を事務局にて行いました。定例会終了後は懇親を図るため、暑気払い会(9月)を開催しました。相談会定例会には長年相談員を務められている経験豊富な会員が参加されるため、若手相談員は相談対応などの助言をいただいで今後の相談活動に活かしていきたいと思ひます。

(7月相談会定例会参加者:加藤・月形・高司・樋口・武本・川津・西村・有吉 計8名) (担当:有吉兼次)



建築相談室 定例会議風景

協代会幹事会ミーティング

■日時:2020年7月20日月曜日17:30-18:30

■場所:事務局

■参加人数:10名(幹事会)+5名(協代会和田幹事+執行部4名)

上記日時に協代会幹事会ミーティングが開催されました。8月に開催されるポーリング大会の事前打ち合わせや今年度の活動計画、例会参加、新しいホームページの活用方法などが議題で打ち合わせされました。毎年恒例の納涼懇親ポーリング大会は下記の通り実施予定です。

○日時:2020年8月3日(月)

PM6:00集合 6:30開始

○場所 ①ラウンドワン福岡天神店

②懇親会場:

西鉄グランドホテル2階大宴会場

○参加予定人数:60名



協代会幹事会ミーティング風景

デザインリーグ

■日時:2020年7月14日火曜日18:30-20:30

■場所:FGN(福岡グローネクト:旧大名小学校)3階会議室3

○委託事業コンペ落選の報告

○デザイナーズファイル(会員名簿)の更新、

○リモートセミナーの開催検討等(担当:西村友吾、福田哲也)

会員交流

日比生先生が本年度本部理事会にての名誉会員に承認されました。名誉会員のお祝い会を2020年10月上旬に予定しています。また、同日に四季の会を開催致します。(担当:佐々木寿久)

■ 2020年度JIA長崎地域会総会

- 日時 2020年4月3日(金) 17:00～
- 出席 会員数21名 出席者13名 委任状4名 計17名
書面評決にて総会を開催

□新役員構成

- 相談役 佐々木 信明 建築家資格制度実務委員会担当
 地域会長 田中 健一郎 総務委員会担当・JIA災害対策会議担当
 副地域会長 梶崎 象三 広報委員会担当・JIA25年賞委員会担当
 副地域会長 松本 隆之 JIA保存再生会議担当・デザインレビュー
 高校生レポーター派遣事業担当

- 幹事 中野 善弘 JIA環境会議
 木場 耕志 JIA建築相談会議担当
 三好 定和 JIAまちづくり会議担当
 会計幹事 中村 信夫 会計担当
 監査 奥村 信幸
 山田 宏彰

今年度の総会はコロナウイルス感染拡大防止の理由から書面評決方式により開催し、役員改選を支部と足並みを揃える為に行いました、会員や地域社会へのアプローチ事業を継続して進めて参ります。

■ 2020年 第1回例会・建築技術セミナー

- 日 時 2020年5月11日(月)
- 出席者 メール配布(全会員・協力会員)

- 1、本部報告
- 2、支部報告
- 3、2020年度の長崎地域会事業計画について
- 4、地域会規約について

第1回目の例会・技術セミナーはコロナウイルス感染拡大防止のためメールにて報告を行いました。

■ インターンシップ事業

- 受入期間 4月8日～4月27日
- 株式会社三省設計事務所：田中健一郎 受入
九州大学芸術工学部環境設計学科 3年生1名 受入



■ 2020年 建築技術セミナー(2)見学会

- 日 時 2020年6月28日(日)
- 出席者 メール配布(全会員・協力会員)

- 1、長崎駅舎の見学会はコロナウイルス感染拡大防止のため中止
- 2、支部報告
- 3、地域会規約について

第2回目の例会・技術セミナーはコロナウイルス感染拡大防止のためメールにて報告を行いました。

■2020年度 第2回例会

日時 2020年6月16日(火) 19:00～20:00
 場所 日建学院日建学院・大分校 302教室
 出席者 10名
 JIA会員 出席 9名、委任状6名、欠席 2名 (15/17)
 協力会員 0名、県外会員 0名、一般 1名
 議事録作成者 坂本 肇
 議事録署名人 足立心也

◆内容

1.確認事項 竹宮副会長
 出席者人数の確認を行った。
 会員数17名の内、出席者総数15名(委任状による出席者数6名含む)、欠席者2名により、例会が成立する。

2.報告事項 竹宮副会長

○新役員挨拶

- ・会長：重田・副会長：竹宮・幹事：高橋
 皆さんから、新役員の挨拶を頂きました。



○支部関係

- ・各地域会共通の「地域会規約」を作成予定。
 (現在あるのは「大分地域会規則」)
 ・今年度の九州支部大会(北福岡)および九州建築塾(熊本)の来年度への開催延期。
 ・JIA・SDGs建築フォーラム(建築家大会代替事業)の開催延期

○地域会関係

- ・学生支援活動報告
 ・協力会員新入会員報告
 ・山崎真司氏 正会員申込みについて承認
 *ご本人オブザーバー参加されました

○その他

- ・三浦前会長 挨拶



4.閉会

竹宮副会長より閉会の辞があり散会しました。

竹宮副会長

■2020年度 第3回例会

日時 2020年7月21日(火) 19:15~20:00
 場所 コンパルホール・304教室
 出席者 22名
 JIA会員 出席 8名、委任状6名、欠席 3名 (14/17)
 協力会員 12名、県外会員 0名、一般 2名
 議事録作成者 松田周作会員
 議事録署名人 後藤洋一会員

◆内容

1. 確認事項 高橋幹事
 出席者人数の確認を行った。
 会員数17名の内、出席者総数14名(委任状による出席者数6名含む)、欠席者3名により、例会が成立する。



2. 会長挨拶 重田会長

3. 報告事項 重田会長

○正会員申込について

山崎真司氏 | 一級建築士事務所 Yama Design 代表
<http://yamadesign.jp/>

※申込済/九州支部通過/本部審議待ち



一宮嘉宏氏 | 設計工房一嘉 Architect Design Atelier Ichika 代表
<https://ada-ichika.jimdofree.com/>

※申込済/九州支部通過/本部審議待ち



○協力会員申込について

・大成木材株式会社
<http://taiseijyukuken.jp/taiseimokuzai>

横山武史社長、川村博文部長の自己紹介/挨拶



○木の匠育成事業について

大分県林産振興室と重田会長と三浦会員で、今年度の継続、短期間カリキュラムにて実施を検討中。新たな講師陣を迎え、スケジュールが決定次第、参加者の募集開始予定。

4. その他

株式会社TOKO
<https://www.toko-ss.co.jp/>
 内藤俊彦氏、自己紹介/挨拶



豊生商事株式会社
<http://www.housei-shouji.co.jp/>
 吉田明弘氏、自己紹介/挨拶



8月29日、県の建築部会にて大分建築5団体(JIA(建築家協会)、建築士会、建築士事務所協会、JSCA、設備設計事務所協会)の設立を協議予定。

5. 例会企画 商品紹介

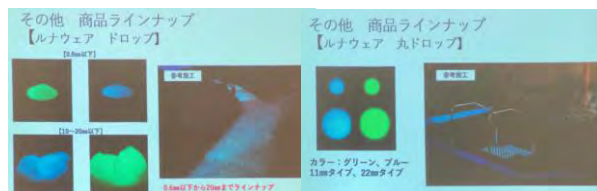
株式会社スズキ・山口哲弥 協力会員より
 ルナウェアに関する商品紹介を行っていただきました。



株式会社スズキ | 山口哲弥氏
<https://www.e-suzuki.co.jp/ja/>



ルナウェア
<http://www.codomo-e.co.jp/lunaware/>



6. 閉会

竹宮副会長より閉会の辞があり散会しました。

竹宮副会長

北福岡	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島
-----	----	----	----	----	----	----	-----

活動スケジュール

○8月

- 5日：学生実行委員会事前会議 開催
- 18日：第1回学生実行委員会 開催
- 21日：第4回WS実行委員会 開催
- 26日：第2回学生実行委員会 開催
- ：第5回WS実行委員会 開催

○9月

- 2日：第4回地域役員会
- ：第6回WS実行委員会 開催

※学生実行委員会とは本年度日韓学生ワークショップの課題を講師である中山先生と一緒に協議を行う、学生のメンバーである。

地域会長あいさつ

地域会長：杉野友紀

地域会のメイン事業である「日韓学生ワークショップ」の本年度の課題が決定しました。本年度は学生達に基本の考えを協議・提示して貰い、講師である中山先生（2019年度JIA新人賞受賞者）と一緒に考えて課題を決定しました。事前会議も含め、合計3回のZoom会議を開催しましたが、Webを利用したりリモート会議を活用したからこそ実現できた企画だと思っています。

本年度は全体を通して、Webでのリモート開催と致しますので、ネット開催の利点を検討しながら様々な技術の活用をメンバーと協議し、現在準備を進めています。

また、以下にスケジュールも決定しました。

詳細は後日配布する予定にしていますので、参加のご検討どうぞよろしくお願い致します。

「日韓学生ワークショップ」

○課題

「私から始まる公共空間」

○スケジュール

- 9月30日：応募締切り（10チーム程度）
- 10月18日：中間講評会（講師による指導）
- 11月13日：成果品動画公開（限定公開）
- 11月22日：最終講評会（講評及び賞授与）

学生実行委員会事前会議

- 日時：令和2年8月5日水曜日18：00-19：30
- 場所：Web会議（Zoomでの開催）
- 参加：安東、金子、後藤、塩釜、戸村、杉野（以上地域会会員）

：佐久間、石塚（以上九工大先生）近藤、木村（以上日本文理大先生）

：中上、末廣、村上、栗谷、川村（以上学生実行委員会）

■主な協議事項

- ・日韓学生ワークショップの説明
→過去20年の流れと、最近の事業の説明
- ・学生実行委員会の役割

第1回学生実行委員会

- 日時：令和2年8月18日水曜日16：45-20：00
- 場所：Web会議（Zoomでの開催）
- 参加：安東、金子、加藤、後藤、塩釜、杉野（以上地域会会員）
- ：中山（中山英之建築設計事務所）
- ：石塚（以上九工大先生）
- ：中上、末廣、栗谷、川村（以上学生実行委員会）

■主な協議事項

○中山先生への説明（事前）

- ・日韓学生ワークショップの説明
- ・学生実行委員会の説明

○課題について

・学生実行委員会提案：“集まることの価値を見出す”を軸に考える

テーマ：「集まる価値を見出す建築」

キーワード：距離感、対面の必要性、集まりたいと思える、五感を感じられる

・中山先生：対象を考える際に、自分が使う側（客側）ではなく、現在コロナの影響を最

も受けている運営者側目線で考える必要があるのでは？

人を単に呼び込むという事ではなく、地域の中で良いものを見つけて、運営していくという発想を持ってほしい。



第2回学生実行委員会

- 日時：令和2年8月26日水曜日17：00-18：30
- 場所：Web会議（Zoomでの開催）
- 参加：安東、金子、加藤、後藤、塩釜、杉野（以上地域会会員）
- ：中山（中山英之建築設計事務所）
- ：佐久間、石塚（以上九工大先生）
- ：村上、栗谷、川村（以上学生実行委員会）

■主な協議事項

○課題について

・学生実行委員会提案

キーワード：ゆかりのある地域・場所 日常と非日常 何を誰と共有するか 共感 心理的距離 心の通じ合い 場所の決定による建築の決定 思い出 過去を辿る 出逢い ご縁

・中山先生：仮テーマ：「私から始まる公共」

キーワード：自分がもてなす側にある建築

その(対象とする)地域性を読み解く(普通及び日常)

withコロナの社会である事

人が集まる事の意味

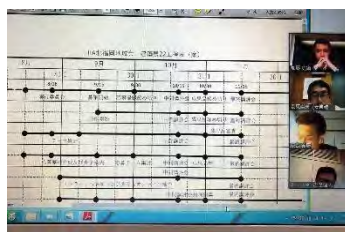
第4回日韓WS実行委員会

- 日時：令和2年8月21日金曜日21：00-23：00
- 場所：Web会議（Zoomでの開催）
- 参加：安東、加藤、金子、後藤、塩釜、戸村、杉野
- 主な協議事項
- 課題について
 - ・テーマは学生委員会と中山先生との協議に一任（8/26予定）
 - ・発信は例年通り文章で
- 提出物について
 - ・7分以内の動画によるプレゼン
 - ・YouTubeにアップ。翻訳機能を用いて言語に対応
→字幕は英語
- スケジュールについて
- その他
 - ・韓国学生への参加依頼→参加可否で状況が大きく変わる
 - ・自動翻訳機能の使用について
 - ・Zoomの機能について



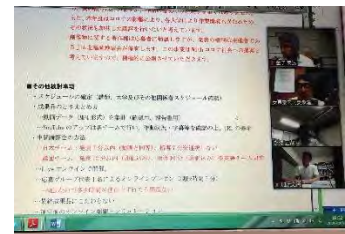
第5回日韓WS実行委員会

- 日時：令和2年8月26日水曜日19：00-21：00
- 場所：Web会議（Zoomでの開催）
- 参加：安東、加藤、金子、後藤、塩釜、杉野
- 主な協議事項
- 課題について
- 仮テーマ：「私から始まる公共」
- ・スケジュール：9月15日発表予定。→発信手法について
※各大学（リスト化）←スケジュールも含め見える化。
※学生実行委員会の動画提供（YouTube）
- 提出物について
 - ・対象とする場の説明：2分、対象への提案：5分
- ※必ず対象とする場の説明を行い、それに対する提案を行うこと
- スケジュールについて
 - ・最終講評会の決定：11月21or22日
 - ・中間講評会：10月中旬（未定）
- その他
 - ・韓国大学とのZoom会議の調整（9月2週）
 - ・通訳の依頼について



第6回日韓WS実行委員会

- 日時：令和2年9月2日水曜日19：00-21：00
- 場所：Web会議（Zoomでの開催）
- 参加：安東、加藤、金子、塩釜、永澤、杉野
- 主な協議事項
- 参加校数について
 - ・Zoomでの講評はかなり疲労が溜まるので、参加校数を制限すべき→具体的には10校程度
 - ・1大学1チームを基本とする。
 - ・詳細な当日スケジュールを作成し、講師に内容を打診。
- 翻訳について
 - ・自動翻訳の利用について
 - ・具体的な通訳の必要事項について
- その他
 - ・Zoomでの動画配信を確認（データ及びYouTube）
 - ・上記環境に違いによる配信の確認
 - ・リモート運営の組織について検討
 - ・組織表の提示



北福岡地域会第4回役員会

- 日時：令和2年9月2日水曜日18：00-19：00
- 場所：Web会議（Zoomでの開催）
- 参加：金子、塩釜、戸村、永澤、松島、三迫、服巻、杉野
- 主な協議（報告）事項
- ・平田さんの退会について→地域会費の扱い
- ・自動絵画展（事務所協会主催）への後援
- ・地域会規約についての意見
 - ・第5条2について、地域会運営費の承認は金額について
 - ・第6条2について、準会員の対応について
 - ・第7条（協力会員）について、規定6条によると、会費についても支部役員会の承認が必要と読み取れる。
 - ・上記個人会員については本部定款にも記載があるため、銘記についてはどちらでも問題ない。
 - ・第8条（外部役員）について、記載があっても問題はなし。
 - ・第11条の役員会について、委任出席に関する記載が不明。
 - ・第13条について、(1)及び(2)はどちらかで片方で承認可能か？
 - ・第14条2、地域会委員及び部会について支部からの指名に関しての記載が難解
 - ・日韓合同WSの開催について
→JIA国際交流補助金の申請について
 - ・例会の開催について→9月or10月中に開催予定（Zoom開催）
→CPD申請とする。
 - ・九州4団体代表者会議について
 - ・JIAまち並みレビューの募集について（支部事業）
 - ・次回九州支部役員会の案内（9月12日13:00~開催）
 - ・各種大会中止となり、CPDの獲得事業がなくなるが、本部の対策はあるのか？

福岡地域会役員会 (第3回)

■日時：2020年8月8日土曜日18：00-19：50

■場所：天神ビル11階

■参加人数：13名

第2回役員会議事録確認

■審議事項

1.入退会について 現在120名、準会員9名、合計129名

■協議事項

1. 四季の会について

・ 8月末のコロナの状況のみて、名誉会員のセレモニーを10月の地域会役員会や四季の会で行う様、検討していく。

2. 大牟田市庁舎保存活動について

3. JIA九州支部地域会規約(案)について

執行部と事務局で協議して、支部へ変更案を提出する。

4. 九州設計4団体懇談会について

セミナーと懇談会の線引きが曖昧な為、災害対応等大きなテーマを決めて議論するべき。現状、具体的な成果が出ていないので、県単位のワーキンググループを作る。各代表によるWEB(ズーム)会議にする等、引き続き検討する。

5. その他

・ 福岡地域会役員会開催について

今後の災害等による緊急時に会議できるように、事務局とも調整しWEB(ズーム等)会議の体制は作っておく(セキュリティについては要検討)

・ まち並みレビュー(仮称)について

・ 会員名簿について

・ ホームページ内に名簿を載せることで、逐一変更が可能になり、経費削減にも寄与できる。紙面名簿は迅速に見られるのでニーズが高い。2年毎に発行する等、引き続き協議する。

9. 報告事項

1. 会長報告(福岡地域会長)

- ・ 協力会ポーリング大会の中止
- ・ 建築倶楽部ゴルフコンペの中止
- ・ 福岡県美しいまちづくり建築賞のお知らせ

2. 九州支部長報告(松山支部長)

- ・ 今年度は支部大会、建築塾の中止し、来年度に行う予定
- ・ 本部総会の出欠表の返信率は九州支部が全国一位
- ・ 本部の浅尾氏が正式に事務局長に就任
- ・ JIA通帳口座名義を川津から松山に変更完了
- ・ 建築25年賞について
- ・ JIA建築系学生支援事業について
- ・ JIA通帳口座名義変更完了
- ・ 建築25年賞について
- ・ JIA建築系学生支援事業について

3. 事業室報告(田島室長)

- ・ 協力会の休会について
- ・ 建築相談について

4. 企画運営室報告(村上室長) ・ 8月例会、・ HPの状況について ・ 8月例会の中止(延期)WEB(ズーム)による例会も検討。

5. その他

・ 東住吉小学校校長がコロナの影響で主要4科目の授業を優先させるため小学校派遣事業の開催時期は今後検討するとのこと。

・ 中国支部の元支部長より九州豪雨被害のお見舞金の贈りたいと打診があったが支部として災害復興支援として活動予定がなくお見舞金の使い道が見込めないため支部長と相談してお断りすることとした。

・ 宮城県立美術館保存活動の案内が届きました。福岡地域会で回覧予定。

・ 本部の苦情対策委員会ワーキンググループが規程に関して継続議論を行っており、総務委員会に中間報告を行った。

・ 本部でコロナ禍後の建築についてワーキンググループが開始された。熊本の柴田理事が委員として参加している。

・ 支部が事務局を担当した木造ビル研究会の発表会が7月27日に開催され、その様子が西日本新聞で後日掲載された。当日、北福岡の松島会員と大分の三浦会員のチームが発表された。



建築相談室

建築相談室では事務局と市役所にて月3回建築相談を受け付けています。8月は下記の2件の相談対応を行いました。

○8月12日福岡 トラブル 1年前に新築した注文住宅の基礎下の瓦礫について(樋口・有吉)

○8月24日福岡 一般 近隣に建つ新築マンションの影響について(樋口・有吉)

デザインレビュー

今年もデザインレビューの学生実行委員会が発足しました。今年度は佐賀大学を中心としたメンバーとなっておりますがコロナの影響で大学間で集まる事が難しく、WEB会議で対応しています。クリティークも今後順次決定していく予定になります。

第2回 JIA_Kagoshima オープン・レクチャー

鹿児島地域会では、2020年から会員並びに一般の方々や学生を対象としたオープン・レクチャーを開催しています。

第1回は6月19日、蓑田満康会員による「わたしの建築」と題したレクチャーを開催いたしました。

今回、第2回として8月16日、建築家が自作を語るレクチャーとして、第一工大堀口讓司教授に登壇いただきました。

堀口讓司氏はこれまで竹中工務店本店設計部長として多くの建築作品をつくってこられ、特に劇場建築を手がけられており、劇場空間に秘められたデザインについて語っていただきました。

「劇場空間のコスモロジー -サーカス・歌舞伎・宝塚」
の題名にて

- 1.劇場空間のタイポロジーと歴史の変遷
- 2.「同心円形」劇場
- 3.「U字型」劇場
- 4.「対向型」劇場
- 5.理想の劇場空間とは

に分類されを歴史的な成り立ちや、関わった人物像も交えわかりやすく非常に興味深い内容を公演いただきました。

参加者は学生、一般が13名、JIA関係者が9名でした。

今回からWeb配信も試み、Zoomにて4名程が参加しました。

尚、検温、消毒、密を避けるなど感染対策も実施しています。

レクチャー終了後は意見交換懇親会も実施し、大変意義のあるオープンレクチャーとなったのではと思います。

今後は、Web配信を含め広報活動、方法を模索、協議しながらより多くの方々の参加をいただけるような体制作りを行う予定です。



編集後記

台風一過で真夏が一気に去り、さわやかな秋風が気持ちいい季節となってまいりました。ブルテン発行の9月末の現段階では九州のコロナ感染者数も落ち着いて、少しずつですが街にも賑わいが戻ってきているように感じます。


今回も執筆を快く受けていただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

松岡さんの行きたくなる場所としての都心、人の心を豊かにする都心に対する熱い取り組みに共感し、問題提起から構想実現までの力強く迅速な行動力に感銘いたしました。鮎川さんのわかりやすい文章で建築団体や資格の歴史など理解が深まりました。法定講習者7万人と少なさに驚き、今後人口減少や景気後退などで設計従事者は減っていく状況の中で人が集まった行動力や発言力が必要と思います。地下のバーや会員事務所、ライブパブなどで開催される福田さん率いる福岡地域会の例会ではコロナ禍においてますます変化と進化を遂げようとしています。これまでの例会にIT技術を駆使し、参加地域を広げグローバルに展開していきます。支部広報の大先輩衛藤さんの文面から支部の歴史を垣間見、時代と共に紙媒体から電子媒体へ発行形式が変わりましたが、支部の会員同士のつながりを感じられるブルテンは継承していきたいと思います。中俣さんの「よかもん」では茶室・数寄屋や村野藤吾氏の現場監理や松下幸之助氏の世界を高度経済成長期の時代背景と重ねあわせながら興味深く拝読しました。ご自身の経験や建築を通じて得られた宝物は時を越えて当時の思い出も詰め込まれているのではないのでしょうか。「わさもん」では新入会員の丸丸さん、荒木さん、新田さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆していただきました。これからよろしく願いいたします。

そして支部長挨拶にかかれています日比生正さんが名誉会員に、鈴木基正さんがフェロー会員になりました。お二人の功績等を後のブルテンにてご紹介させていただきたいと思います。

広報副委員長 有吉兼次

BULLETIN Kyushu BRANCH



The Japan Institute of
Architects Kyushu branch
公益社団法人 日本建築家協会九州支部

SEP.2020